



発行：熊谷市立江南文化財センター

TOPICS

歓喜院聖天堂一般公開

国指定重要文化財、妻沼聖天山の歓喜院聖天堂は、その技巧の高さが日光東照宮と比肩しうものであることから、「埼玉日光」と称されています。江戸時代に再建されてから、250年が経過し、毀損した箇所や剥落した彩色を復元するために、平成15年10月から約7年間の歳月をかけ、「平成の大修理」が行われました。平成22年秋の工事終了を経て、平成23年6月1日から、一般公開が開始されました。その後、国内各地から多くの来場者が訪れ、7月時点でその数は二万人を突破しました。極彩色の蘇った歓喜院聖天堂をご堪能ください。



県指定記念「西別府祭祀遺跡出土品展」開催中！！



平成23年3月18日、「西別府祭祀遺跡出土品」359点が、県の指定文化財（有形文化財・考古資料）に指定されたことを記念して、市立熊谷図書館3階郷土資料展示室にて特別公開しています。好評のため、年内まで展示期間を延長します。

西別府祭祀遺跡は、西別府・湯殿神社裏のかつて湧水のあった堀の周辺に形成された遺跡で、飛鳥時代から平安時代後期にかけて継続的に、豊富な湧水に祈りを奉げていた祭祀跡です。展示は、この祭祀を特徴づける石製模造品、土器、土錘などの計83点を、時期を追って展示し、祭祀の実態や変遷が分かるよう工夫しています。是非、この機会に、熊谷市の歴史を物語る貴重な文化財をご覧ください。

市政宅配講座「わかりやすい星溪園」



6月下旬、市政宅配講座「わかりやすい星溪園」を、星溪園にて行いました。35人の受講者の方に、星溪園の建物・庭園について解説を行いました。受講者からは、星溪園を身近に感じることができ、開催される茶会などのイベントにも参加したいというご感想を頂きました。文化財センターでは、この他に埋蔵文化財や伝統芸能などの市政宅配講座を用意していますので是非ご利用ください。

星溪園うちわ茶会

熊谷うちわ祭の巡行祭が行われた7月21日に、星溪園において茶会を開催しました。このイベントは京都の祇園祭に併せて行われる茶会にちなんで、熊谷茶道協会との共催で開催したものです。当日は台風の接近に伴い天候が危ぶまれていましたが、快晴となり、約50名の来場者が冷涼な星溪園の庭園を眺めながらお茶を楽しんでいました。



市内遺跡発掘情報

前中西遺跡「弥生時代から奈良・平安時代の遺構を確認」

5月～7月まで行った上之地区の発掘調査では、弥生時代後期(約2100年前)と古墳時代前期(約1700年前)及び奈良・平安時代(約1200年前)の遺跡を確認しました。弥生時代は竪穴建物跡3軒とお墓を検出し、棺とした土器からは管玉4点が出土しています。古墳時代前期の溝跡からは、祭祀の土師器(高坏・器台・埴)と槽(木製品)が見つかりました。また、奈良・平安時代の溝跡からは漆の塗られた須恵器と土師器、桃の種、墨書の残る木簡、経巻具(機織具の一部)が出土しています。墨書の残る木簡は市内で初めて確認されました。いずれも水辺の祭祀に関する遺物と考えられ、貴重な発見となりました。



出土した木簡

「奉」か？



古墳時代のお記りの跡

新連載 くまがやの古墳群

熊谷市には、1000基以上の古墳の所在が考えられ、その多くが群をなして存在する古墳です。また、大半の古墳は、古墳時代後期のおおむね6世紀から7世紀末までのものです。今回から新連載として、市内の古墳群についてご紹介していきます。

① 別府古墳群

別府古墳群は、主に東別府地区の柳桜台地北東端付近に点在する古墳時代後期の古墳群で、前方後円墳・カンニチ山古墳のほか16基の存在が確認されています。その多くは墳丘を失い、現在はほとんど見る事ができません。いくつかの古墳については調査され、埴輪等の出土品が知られています。現在、埼玉県立さきたま史跡の博物館所蔵の農夫埴輪(写真)は、本古墳群のヤス塚古墳出土のものです。



○平成22年度刊行の埋蔵文化財調査報告書について

平成22年度に以下の4冊の埋蔵文化財調査報告書を刊行いたしました。これらの報告書は江南文化財センター及び市立図書館で閲覧できます。また当センターのホームページ「熊谷市の文化財」でも公開していますので興味のある方はぜひご覧下さい。

右：『埼玉県指定史跡 塩古墳群』報告書



報告書名	所在地	時代
『円山遺跡』	箕輪(大里)	弥生、奈良・平安時代
『前中西遺跡VI』	上之(熊谷)	弥生、古墳、奈良・平安時代、中・近世
『埼玉県指定史跡 塩古墳群』	塩(江南)	古墳時代
『瀬戸山遺跡・山ヶ谷戸遺跡』	楊井(熊谷) / 上根(妻沼)	奈良・平安時代 / 古墳～近世

文化財センター通信

わが街熊谷遺跡めぐり(立野・前中西)

江南文化財センターでは、平成19年の開館以来、「わが街熊谷遺跡めぐり」と題し、市内の遺跡を紹介するテーマ展を行っています。今年度ご紹介するのは、立野遺跡(板井)と前中西遺跡(上之)です。立野遺跡では、古墳時代及び平安時代の住居跡から出土した土器、中世のお墓から出土した土器や五輪塔、茶磨など、前中西遺跡では「最新出土品展」と題して遺跡の主体となる弥生時代の住居跡やお墓から出土した土器や石器、土偶などを公開しています。展示は立野遺跡が10月末、前中西遺跡が11月中旬までの予定です。みなさんぜひ当センターにて、熊谷の歴史に触れてみてはいかがでしょうか？



熊谷市文化財日記の開設

この度、「熊谷市文化財日記」というブログを開始しました。江南文化財センターでは、日常どのような仕事をしているのか疑問に思っている方も多いと思います。そこで、江南文化財センターで日常行っている仕事や各種行事・事業のお知らせ等について、ブログ形式でほぼ毎日、最新情報を発信していきます。URLは、<http://kumagayasibunkazai.blog.so-net.ne.jp/> です。ぜひご覧ください。



文化財ドクター派遣事業



現在、東日本大震災によって被害を受けた県を中心に、文化財建造物への被害状況を把握し今後の修復に生かすための「東日本大震災被災文化財建造物復旧支援事業(文化財ドクター派遣事業)」が実施されています。本市においては、この事業の一環として、5月下旬、日本工業大学の黒津高行教授を中心とした研究グループと共に市内建造物の調査を行いました。

国登録有形文化財建造物「坂田医院旧診療所」、県指定有形文化財建造物「龍泉寺・観音堂」(妻沼・善ヶ島)、市指定有形文化財建造物「四脚門」(妻沼軟喜院)、国登録有形文化財建造物「日本聖公会熊谷聖パウロ教会礼拝堂・門」の現地調査を行い、坂田医院旧診療所においては地震によって生じたと思われる毀損箇所の確認を行いました(写真)。

文化財探訪 平山家住宅 一県内最大規模の農家住宅

平山家住宅は、市内樋春地内の荒川右岸に位置している江戸時代に建てられた農家住宅で、昭和46年6月22日に国の重要文化財に指定されています。

建物は、桁行19.3m、梁間10.9mの入母屋造り茅葺の平屋建てで、農家住宅としては県内最大規模となります。

間取りは三間取大型広間型で、吹き抜け天井となる四十畳の広い土間には造りカマドが築かれており、右手にはウマヤが2室設けられています。露出した梁組の用材には、曲がりくねった赤松材を巧みに構架させており、南関東における豪壮な農家住宅の典型となっています。平山家は、旧樋口村で名主をつとめた旧家で、現在も屋敷周りに堀や土塁が残っています。



文化財コラム 古代との遭遇・第7話

三つの顔を持つ盾持武人埴輪—女塚1号墳—

墳の溝を掘っていた作業員さんが土に埋まった丸くて『赤い石』のようなもので長靴についた泥を落としていました。落とし終わって『赤い丸石』に水をかけたところ、『赤い丸石』に刷毛(はけ)でつけた筋が見えたようです。昼休みにこの話を作業員さんから聞いて、「えー、それ丸い石じゃなくて埴輪の丸い場所じゃないや？」といって現場へ直行し、広く泥を除けてみると、なんと、外側の堤の南西隅で、欠けたところのない盾持武人埴輪が、墳丘を背にして斜めうつ伏せに倒れ、後頭部だけをみせている状況でした。そこで、急速埴輪の出土状態を図にとり、写真を撮ることにになり、終わったのは夕方近くになってしまいました。

作業を終えて埴輪を取り上げるとき、一度仰向けに寝かせてみました。すると頭の方から見ていた作業員さんが「なんだか怒っているような顔だねー」というと、足元のほうから見ていた作業員さんが「なにいつてるの、笑ってるよ」と反論し、真ん中で見ていた作業員さんは「いやー、りりしい顔してるよ」と、それぞれがまったく違う感想を言いました。そこでそれぞれ見る場所を変えてみると「ほんとだー」「ほんとだー、笑った顔もしているよ」と、全員が納得しました。この盾持武人埴輪は三つの顔を持っていたのです。やや上向きの顔に杏仁形(きょうにんがた)の眼が切り込まれていますが、この切り込み角度が絶妙であり、これによって三つの顔が作り出されていたのです。

女塚1号墳からは他にも盾持武人埴輪が墳丘や周溝の各隅から出土していますが、顔つきが違ったり髪型が違ったりバラエティに富んでいます。それぞれが配された位置に役割があり、これらの埴輪は天空から来る邪気を、怖い顔と盾で防ぐ役を与えられていたのでしょうか。



◇ 文化財イベントのご案内

	日時・期間	場所
星溪園 楽しいお茶会	9月4日(日) 13時～16時	星溪園・立礼席 講師：鎌塚宗千(江戸千家)
	9月18日(日) 13時～16時	星溪園・星溪寮 講師：清水宗香(表千家)
	10月2日(日) 13時～16時	星溪園・立礼席 講師：彦根慶香(京橋流・四方庵)
	10月16日(日) 13時～16時	星溪園・星溪寮 講師：松崎宗溪(江戸千家)
無形民俗文化財 パネル展示	8月2日(火)～10月14日(金) 9:00～17:00	妻沼展示館(妻沼東1-1) 休館日：月曜、9月20日(火)、10月11日(火)

編集後記

日本の文化財に関する世界的な動向として、5月、福岡県田川市などが所有・保管する炭鉱記録画家・山本作兵衛の絵画や日記などがユネスコ世界記憶遺産に登録されたことに引き続き、6月にパリで開催された第35回世界遺産委員会において、「平泉の文化遺産」と「小笠原諸島」が世界文化遺産・自然遺産に登録されました。

これらの登録が、震災から復興に向けて尽力する人々にとっての希望となることを願っています。そして、文化芸術が人々の心の灯火となることと同じく、文化財が人々の心の支柱となることを信じて、まずは身近な場所にある文化財の保護を地道に続けていきたいと思えます。



発行：平成23年7月25日

熊谷市立江南文化財センター(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係)

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話 048-536-5062 FAX 048-536-4575

メール c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

ホームページ：文化財の紹介、埋蔵文化財の取扱方法、「BUNKAZAI 情報」カラー版などを豊富に掲載

「熊谷市の文化財」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/>

「熊谷市 web 博物館」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>